



砺波総合病院から

病院的ホームページもご覧ください。

市立砺波総合病院 ☎32-3320

放射線科医の仕事

放射線治療科 部長 西嶋 博司
 放射線科 部長 龍 泰治

今回は放射線科医の仕事に焦点をあててご紹介します。放射線科医の仕事は大きくわけて放射線治療と放射線診断があり、それぞれで業務を分担しています。

◆放射線治療

放射線治療科が担当します。がんの治療法の主なものには、がん病巣に対する手術治療と放射線治療、全身に作用する薬物療法があります。がんの治療法のひとつでもある放射線治療は、がん細胞に放射線を照射してがん細胞を死滅させたり縮小させたりすることで効果を発揮する治療です。超高齢社会に入ってきた日本では、体に対する負担が比較的軽く、がんの根治的な治療のほか、痛みなどの症状の緩和に至るまで広く用いることができる放射線治療の重要性が増しています。

放射線治療には、色々な方法

があります。「リニアック」という治療装置から出てくるエックス線という放射線を体の外から体内の病巣めがけてあてる外部照射」という方法が最も一般的です。当院では、平成3年からリニアックを導入して治療に取り組んでいます。平成29年、最新鋭の装置に更新しています。

新しい装置では、「正しい位置に放射線が照射できるように備え付けのCTスキャンで位置合わせを行って治療できるイメージガイド下放射線治療」が可能になり、治療精度がさらに向上しました。このほかには、前立腺癌に対して小さな放射線のカプセルを埋め込んで治療を行う小線源治療や放射性治療薬を注射する放射性同位元素内用療法という治療を核医学科で行う場合もあります。

◆放射線診断

放射線診断科が担当します。放射線診断医とは画像診断について専門的なトレーニングを積んだ医師のことで、放射線診断部門に所属しています。言葉で見ると「放射線」診断となっているようですが、放射線を出す診断装置であるCTやX線と、放射線を出さない診断装置であるUS（超音波画像）やMRI（磁気共鳴画像）を合わせた画像検査全

般が仕事の範囲です。

放射線診断医は、放射線診断部門の統括者として、病院における画像検査が最適化されるように管理することを最も大切な業務と考えています。この管理とは「無駄な検査をしない」「放射線被ばくを最低限にする」「各科医師に最適な画像検査法を提示する」「撮像方法を統一する」「造影剤使用の適応を厳密にする」など、様々なものがあります。また、画像検査の後、文書で画像診断レポートを作成し、各診療科の診療を援助することも仕事の一部です。

画像検査をすることで自動的に病気がわかるわけではありません。各科医師が問診、視触診、神経診察、採血検査、心電図検査などを行うことで病気になる必要が異なります。そのうえ



CT スキャンを装備した新型のリニアック



手前 CT 室。写真奥 (➡) が救急外来で、救急患者はすぐに CT 検査を受けることができる

で予測される病気の確定診断や、想定されるなかで最悪の状態の否定などに画像検査を使用します。放射線診断医は画像を見て「●●は考える必要はない。○○はもつとエックスしたほうがよい。」などと画像診断の専門的な見地から各科医師に助言することも仕事になります。

当院の放射線診断医は、放射線診断専門医2名、放射線専門医1名の合計3名の常勤医で放射線診断部門を担当しています。平日ではCT及びMRIあわせて約100件の検査が実施されます。

◇おわりに

放射線科では最新の知見を取り入れ、病院における縁の下の力持ちになれるよう日々努力しています。